京城新報

●新聞料 ▲一ヶ月金…… ●廣告料 ▲…… ●陰暦十月十七日
發行編輯人 山下英爾 印刷人 京城西署西小門通 發行所 京城新報社 電話六六三

暴徒鎮定談

「天嘯」寄

◎廢立以後の韓國は俄然悲劇の舞臺となり暴徒は燎原の勢を以て擴がり行くを見るのみ統監政治の面目に掛けて是非其根本的に鎮撫せねばならず之れを單に草賊呼りして廃狩でもする積りで分捕撃退の報告を繰返へすのみならば其結果や日韓關係に容易ならぬ大葛藤を起しはせぬか私かに之れを憂ふ

◎自衛團の設立は必至の要求に迫まられて出づ官兵と暴徒の間に挾まれし可憐の良民は此際自衛の方法無くて叶はず但し自衛は譬で字の如し進て鎮撫する意義に非らずして退て防禦する意義なり積極的ならずして消極的なり其は姑く置く自衛團が一進會の手に成りしてふ最初の觸込みは既に第一着を誤れる者地方暴徒の一進會を視る仇敵の如く萬錄此に凝發す日兵に逢へば逃遯する暴徒も苟くも一進會員と見たら最後死に到るまで之れを倒さずんば休まざるは彼等の精神なり此狀勢は萬目の認むる處此時に於て一進會の分身と云ん許りの看板を掲示して進まば此善良なる自衛團恐らく火繩銃の標的となり自衛却て暴徒激發の媒介を爲さずや是も杞憂の一なり

◎元來暴徒は政治的誤解に基て起る廢立以來突急なる改革案が連發銃の如くに連發せり而かも其一々に就て說明せば皆相當の理由あるなり其理由にして充分彼等に解釋され得ば今頃は天下泰平を謳歌し居らんものを悲哉脆弱なる彼等の胃腑は散彈の如く一時に詰め込まれし改革問題を適當に消化する力無く終に食傷 發熱の病を發せるなり理解力に乏しき彼等の愚や亦固より憐むに耐ゆ而して之れを知りつゝ總ての改革案提出を餘りに急ぎし當局の失も亦遂に免れざる也神醫の手に成れる靈藥と雖も喉口に詰まる程に疊々呑下せしめば藥毒に中らざる者殆ど稀なり

◎然れども今や之れを論ずるの暇なし如何にせば此中毒を醫すべきか之れ吾人も當局者も其憂を共にすべき問題なり已む無くんば則ち一有り毒を以て毒を制せよ―反對派をして反對派を緩和せしめよ

◎聞く處によれば彼の有名なる許蔿等亦身を以て暴徒に投じ總指揮官として日夜肝膽を碎くと許蔿にして此の如くんば八道の儒生之れと歟を通する者必ず尠からざるべく地方人民の平生儒生を崇拜する者縱令載を把て起たざるまでも彼等の聲言に滿腔の同情を寄せつゝあるや疑無し乃ち知る當局の新政なる者は根本的に多數韓人の誤解する所となり嫌忌する處となり引て日韓の調和をして次第に不調和の淵に陷入せしむ吾人の恐怖は此に在り銃火の交換屠殺の競爭是の如き小戲劇は何れの國の時代幕にも普通の藝題なれども吾政策に對する民心の不信不平之れを醫すに非らずんば兩國の經營恐く一歩を進むる能はず

◎如何にして之れを醫すべきかは當局者當面の苦心問題なるべく其方法や極て困難なり反對派をして反對派を緩和せしむるの策之れとても十全の見込あるを保し難けれど已む無くんば唯此一途を餘すのみ

一年雜記

雲峴宮の再興(上)

對星樓山人

近世の半島王國史より雲峴宮を取除くならば極めて索莫たる黨爭史のみである、前帝位を即いてより四十年間に於て幾度の外變幾回の政變を數へるが、皆是雲峴宮の日記の事項である、恐らく世界に於て韓國の近世史ほど激烈なる政變を以て滿たされたのはあるまい。

雲峴宮とは前帝の父君たる興宣大院君の一家族が住居せらるゝ王宮の一部である、長子李載冕氏は則ち完興君、次子は則ち前帝である、大院君の最後の活劇は今より十年前に於て終結を告げ、機略一世を蓋ふ小英雄の末路は極めて慘狀であつた、孔德里の墳墓は異常の路式を以て建てられ、王室とは交情全く冷却し、棟洞の雲峴宮は光武元年より十年に至る間、人影寂寥、英雄の末路は荒癈の家門と倶に行人の侮蔑を受けてある、况んや其長孫李埈鎔氏は日本留守中謀殺罪人として何等の待遇を得ず、其次孫李攻鎔氏は老祖父の跡を追ふて幽冥に行き、將さに一家の全滅を見んとして僅かに好人物完興君によりて支へられてあつた。

源平二氏の鬪爭は、骨肉相食むの爭であつたが、近世の李朝は則ち其尤も激しき骨肉爭鬪であつた、其主人公たる閔妃の崩殂に次いて大院君も亦た逝き、殆んど主人公無き舞臺に於てすら、王室と雲峴宮の惡感は何人も調和せしむること出來なかりしため十年間の迫害は英雄の遺物を擧げて破壞したのである、而も時勢の回轉は案外に迅速である、恐らく一生東海を踏む魯仲連とならるであろうと想像されし雲峴宮の一粒兒たる李埈鎔氏は房州の配所より歸國の幸運に接し彼は密使事變の第一日に歸るを得たのである。

彼は雲峴宮の一粒兒である、老雄の愛孫である、玉燕によりて謀叛人視せられたる怪物であつた、然れども時勢の回轉は前帝並に宮廷の全部が自ら其責を負ふべく、今や疾風の如くに雲峴宮を動搖せしめつゝある間に、彼は雲峴宮に入りて重ねて莊獻大王の血統を嗣ぐべく安置せられた。

本年上半期に流通したる滿州の貨幣

▲軍用手票 昨年八月横濱正金銀行大連支店が政府より引繼を受けたる當時の流通高は一千三百六十二萬餘圓なりしが漸次回收して本年一月には四百四十万一千三百二十八圓となり六月末に於ては百八十九万八千八百九十一圓九十錢に減少せり

▲正金銀行券 一月に於ける流通高は二百五十三万千六百七十六圓にして六月には減じて百九十五万七百九十二圓となれり元來軍用手票が漸次回收せられて流通高を減ずるに從ひ之が補充貨たる銀行券は漸次其流通高を增すべき筈なるに事實其反對の現象を示す所以は其原因多かるべきも日本銀行兌換券の流入は其最なるものにして北方商况の不振も亦與て因をなせるが如し

▲銀票價格 內地向爲替相場は昨年末より漸次下落の傾向を生じたれども一月四日に至りて尙百七圓五十錢の高價を保てり然るに下落の趨勢は依然として止まず一月十二日には百六圓臺となり二月一日には百五圓臺、三月十五日には百四圓臺となり尙下落して二十二日に百一圓二十五錢となり更に下落して四月十八日には九十九圓臺となり間もなく又百圓臺に昇るに至れり但し軍用手票の支那人間に於ける取引の相場は其漸次回收せられて流通額を減ずると共に支那人の愛翫甚しき爲め普洲爲替相場の割合よりも幾分か高價なるを見る

▲本邦通貨 本邦通貨は著しく其數を增し來りて市場に於ける取引上の貨幣中の大部分を占むるに至れり今試みに都督府の歲入を見るに四月には通貨銀票に四倍し五月には實に十一倍の多きに達し、又た正金銀行大連支店の六月に於ける一日平均受拂ひ高は受入、通貨一萬二千圓銀票五万千圓、仕拂、通貨九千圓、銀票四万三千圓を示し南滿洲鐵道會社の收入金種に於ては總收入に對する通貨の割合四月には九分五月には一割七分六月には三割四分に上れり以上の狀况を綜合するときは日本通貨は總流通貨幣の約三分の一に位すべく六月末の流通高軍票百八十萬圓、銀行券百九十萬圓に對し兌換券の流通高正金銀行の調査に依るに百八萬圓なりといへるもの恐らく大差なかるべし、尙同銀行の見込內譯高を聞くに大連三十萬圓、旅順四萬圓、營口四萬圓、遼陽八萬圓、奉天三萬圓、鐵嶺八萬圓、安東縣十萬圓、長春一萬圓位なるべしといふ斯く本邦通貨の顯增は一は商業發達に伴ふ自然の勢なれども關東都督府の收入が金建に改まりたると滿鐵會社に於て金銀併せ收入することゝなりたる結果一層其勢を挾くせるものに外ならず

▲日銀及支那小銀貨 同銀の流通は殆ど皆無なり支那小銀貨は昨年末より漸次浸入し來りて日本人間にも流通を見るに至れるも其高は未だ多からず

北淸の燐寸業

滿韓に於ける利權回復熱は遂に嵩じて一種の保護主義に流れんとす近時本邦燐寸の北淸に輸出せられ獨占市場の形態を示すや自國內にも燐寸業を獎勵して一面燐寸の輸入を防遏すると共に自國の產業を保護せんとせり現今淸國に於ける燐寸業は上海、漢口、重慶等を除き北淸にては僅かに北京の丹鳳燐寸柴司あるのみにて而も重慶方面の工場を除きては軸木の如き多くは本邦の供給に係り亞鉛鹽酸加里の如きも亦再輸出するもの尠からず北京の丹鳳柴司は昨年五月の創立に係り當初資本金五万兩の合資組織をなしたるも爾來運轉資本の缺乏等のため漸次增資し昨今投下資本は約十七八萬兩、北京宮廷の有力者も出資者の一人として斯業の發展に努めつゝあるも時恰も同貨の停滯と銀塊下落の爲め創業以來約二萬兩許り損失をなし昨今一日の產出高黃燐燐寸平均三十箱內外なり然れば現時に於て北淸の燐寸業は左程本邦燐寸の大敵視する要なきも聞く所によれば北京廷にては斯業獎勵の爲補助金を交付し以て保護政策を採らんとすと万一該說が事實となり盛に職工を養成し自國產軸木を以て燐寸を製造するに至らば我が黃燐燐寸業者は尠からざる打擊を受くるに至るべしと云へり

文苑

佳羅丹之幾

玉井南軒

弓に男子の心を譬ふ
張り通す男子の意地は强弓の折れてもかへぬものにざりける

寄戀
難波江の深くも君をれもひつゝ浪に浮寐の夢も結ばず

寄髮戀
君故に千々に亂るゝ黑髮のれもひのたけを結ふよしもかな

寄衣戀
摺り良うちすて人の打ち捨てゝきてみることも君はせぬ可南

親族に子生れ栞子と名命せりと聞きて
栞ねてふその名も嬉しみどり子の綠りをかへせ千代の老松

小說 紅のみだれ(十一)

永井櫻園

青年は徐ら口を開いて

「僕が是非話したいと云ふのは、僕が貴方に對する同情と、貴方を此處に來て貰つた其の因緣です。それが實に不思議な位ぐ可怪い事情があるのですよ。あまりに不思議ですから一度れ目に懸つて其事を話さうと思つて、それで來て貰つた理です。」

と、やゝ冷たくなつた杯の酒を呻と飲み干して

「其話と云ふのは斯う云ふ理です。忘れもしない去年の霜月の初旬過でした、某夜友人の宅に往つて思はず夜更をして、彼是十二時頃でもあつたでせうか、明舟町を通りかゝると、唯ある家で大棹の音が聞ゐるので、元來義太夫が好きなもんですから、寒いのも厭はないで軒下に立つて聞惚れて居ると、語物は安達三で、咽も宜ければ節廻も旨し、撥の音も冴ゑて聲は若々しいやうに思はれたが、何しろ身に泌むほど面白く感じたので、無宙になつて聞いて居ると、何だか突如に大きな聲で怒鳴り付る聲が聞ゐると、バッタリ太棹の音も留まれば、語つて居つた聲も留つて了つたので、吁々殘念な事だ、せめて歌祭文の邊まで聽きたかつたと思ひながら、何うしたんだらうかとツイ好奇心に驅られて家の樣子に耳を傾けて居ると、重ねて咬附くやうな聲が聞ゐたが、しかし其聲は何うやら酒氣を含むで居るやうに思はれた……。」

と、青年が此處まで語り進むだ時、淸之助は僕焉思ひ當つた事あるやう

「あらッ、では彼の晩貴所が……」

と、呆れたやうに云つてパッと顏を染て

「飛んだ事を聞かれましたのね。」

と、白い手巾を顏に押當てる。青年は其の恥かしさうな樣子を見て、有繋に氣の毒な感をするので

「ぢや、淸ちやんも思出したと見ゐるね。思ひ出したんならモウ止さう、眞個彼の時は見ず知らずの淸ちやんが氣の毒になつて家へ飛び込むで仲裁爲ようかと思つた程だつた。」

彼の時の話では、現今のれ父さんと云ふのは養父なんで、淸ちやんの實の兩親は亡くなつただつね。ろれを聞くと私は一層同情に堪へなかつた。と云ふのは私が淸ちやんと同じやうに、兩親は私が幼少な時に亡くなつて、今では父の弟に當る叔父の世話になつて學校に通つてるんだ。

しかし、彼の時淸ちやんの養父さんが、其年齡になつて寄席にも一つ能う出んやうな意氣地なしが何になる、首でも縊つて死んで了へ、と口汚なく怒つて居られたから、私は然う思ふた。何程酒に醉つて居るにしても、隨分慘酷な事を云ふ人だ。噫娘さんは口惜しいだらう、實に可愛相だ。けれども、養父さんの言ふのも一理あると思ふた。あれ程の咽を持つて居ながら、なせ寄席にでも出んのだらうか、若も此人が寄席に出やうものなら、必然大層な人氣を取るであらう、實に惜いもんだと、今日が日までも思つて居た。しかるにだ、しかるに、此の正月、好きな道だから琴平亭へ聽に出かけると、初れ目見得と云ふので竹本淸之助と張出してあるから、心窺に甚麼語振だらうかと、樂み申して待つて居つた。すると貴女が安達の三を語つて、あの人氣を博したので、異僞驚いて開た口が閉らなかつた。其時奈何やら節廻に聞覺があるやうな心もしたけれど、豈夫淸ちやんが、彼の晩の娘さんとは夢にも思はなかつた。」

と、今更のやう其顏を瞶める。

人力車營業 京城組 明治町一丁目 電話九四二番

丁稚入用 但十才以上十五才迄 京城本町一丁目(郵便局前) 若林支店(電話一四七番)

開店廣告 旭町三丁目 古着及質 商 南本店 龍山老於町(十字病院前) 同 南支店

廣告 牛肉 かしわ すき燒 永樂町二丁目赤門横手 福壽 初玉事 福田千雄

電話開通貳貳八番 一陸送運搬請負 今般電話開通致候に就ては親切叮嚀を旨として御便宜を計り精々勉强仕候間御用命の程伏て願上候 京城南大門外一丁目 姫野荷馬車部

本店 仁川理事廳通(電話三三二番) 原金旅館 支店 京城南山町(電話一〇七番)

南山町一丁目(植村病院前) 貸席待合 ま乃花 客室は淸潔にして叮嚀なるは本店の特色に御座候

私儀京城漢城病院藥劑主任を辭し左記に開業候間一層之御愛顧願上候 龍山櫻町 藥劑師正八位勲六等 川瀨一五郎 開春堂藥房 營業科目 處方調劑 藥品 賣藥 衛生材料品其他種々

京城新報

新說 **價格の減額に就て**

一國の法規律令を制定し以て國是の完美を圖り國民の權利を伸張せしむるは是れ確かに爲政の要道なり、文物典章燦然として一國の面目を宣揚し宇内に美觀を添ふる所以のものは之れ言ふ迄もなく其國の法規律令の完全圓美なるを示して餘りあるものといふべし

然れども國家は民衆の集合にして民衆ありて初めて國家を形作り國家ありて初めて爰に政を施すものとせば之が爲政の要訣とする所は一に繫つて是等民衆の實際に於ける利害休戚にあるは又言ふを俟たざる所なり故を以て一面に於ては其國の法規律令の完全を期し文物典章の圓美を計らんとすと同時に又他面に於ては是等民衆が日常生存の上に於ける福祉と利便との增進を圖らざるべからず蓋し斯の如くにして始めて上は其政の仁なるを以て居り下又其仁政を謳歌するに至らんのみ

事は少しく小なりと雖も吾人は其韓國に在住する邦人が日常其物價の高騰にして生存自活の上に甚だ困難を感ずるが中にも其冬季に向ふに從つて之が燃料の著るしく多大の量を要すると同時に又其格の著るしく高騰を示すの甚だ困難を感ずること是れなり固より需用供給の原理の上より其爰に至るべきは當然の事にして殊に之が日本內地より來るもの〻如きは或は海關の稅金又は其他の費用等に追はれ勢ひ高騰の價額を來すの已むなきに至らんも、思ふに是等は宜しく當局者に於て之が低額の方法を講じ在留邦人が是等冬季間に於ける生活の苦痛と困難とを救助するの途に出でざるべからず、而して之が方策としては或は輸入稅の全廢を計るも可なるべく又或は間接に其局に當りて自ら之を供給するも可なるべく其他種々講策の決して之れ無きに非らざるなり、聞く近者統府某技師溫突改良法を研究し從來需用せし燒料の三分の一にて全室に暖を取るの方法を講せりといふ、之れ誠に嶄新良好の考案にして吾人は一日も早く之が世上に公表さる〻の時機を待つや切なるものなりと雖も吾人は吳々も當局者が率先して如上の問題に思を廻らし以て在留邦人の福祉と利便とを圖らんことを勸告せざるを得ず、而も唯に之が偏に外觀形式の美にのみ意を注ぎ思を致し又民衆が日常生存の上に於ける利害休戚を顧みざるが如きは是れ決して上は其政の仁なるを以て居り下其仁政を謳歌する所以の道に非らざるなり、今や季漸く冬に入り益々其威を加へんとするの交に際し敢て一言以て爰に當局者に促すと云爾

我陛下の御還幸

常州の野に於て舉行せられたる陸軍大演習に臨御あらせられ親しく練武講籌の壯觀を臠はせられたる我大元帥陛下には去る廿日龍顏いとも麗はしく無恙御還御遊ばされたり、思ふに陛下が常に治に在つて亂を忘れず平時に在つて武を練るの大御心には我臣人の夢寐感佩に堪へざる所なり

東京電報

▲清國答禮大使着期（二十一日發）

清國答禮大使の一行は三十日東京着十八日間滯京歸國の筈

▲馬政長官更迭（同上）

曾禰副統監は歸朝と共に其兼任の馬政局長官を解き陸軍中將大藏平三氏之れに補せらるべし

▲露國前藏相來朝（同上）

露國前大藏大臣シーボフ氏は日露經濟關係調査の爲め近々來朝の筈

▲伊吹無事進水（同上）

裝甲巡洋艦伊吹は今朝無事進水の旨公電ありたり

軍艦滿洲の派遣

一昨飛電あり曰く我政府には韓國皇太子の御渡航は供ふべく軍艦滿洲を派遣せしめたりと思ふに韓國の皇室此の報を聞きて果して如何の感をかなせしや愛撫輔護の情蓋し無限の感涙に咽ぶものあらん乎

各地電報

▲社長を殺害す

アンベイシャの暴徒は社長を殺害して解散せり又或る方面よりの報に依れば社長の外會員六名殺害せられたりと（二十二日咸興發）

雜報

大師の親授式

既報の如く伊藤統監も愈大師に任ぜられ親王に準ぜられたるに就き本日午前九時より昌德宮に於て親授式を舉行せらる〻筈にて昨日來國分秘書官は儀式に關し韓廷の各臣と種々打合はせする所ありたるが其詳細は之れを聞くに由なかりしも伊藤御大師には午前八時官邸を出で昌德宮に於て儀式を終りそれより皇帝は大師を官邸に訪はれ午後より統監は再び昌德宮に伺候せらる〻筈なりと云ふ

●**皇太子の德壽宮訪問**　韓國皇太子は本日德壽宮を訪問あらせられ父皇に御對顏あらせらる〻筈因みに皇太子の警衛に就ては我騎兵憲兵御警衛申上げしが之を御謝絕あらせられ更に騎馬巡查各五名宛前驅に警視一名警部二名後驅に警部一名を附することに內定せりと云ふ

●**皇太子紀念の撮影**　韓皇太子には不日東京に留學あらせらる〻につき昨日は修學院生徒一同を昌德宮に招され岩田寫眞師をして紀念の撮影をなさしめたるが之を各生徒に對し一葉づ〻を賜たる〻由

仁川の統監送別會內定

伊藤統監には來月四日韓皇太子をた伴れ申し下仁して五日軍艦滿洲丸にて仁川を出發歸朝せらる〻豫定なるを以て仁川民團にては豫定の如く四日統監の送別會を催し且便殿の一覽を乞ふ筈なりといふ因に富田民長は統監の都合伺ひの爲め本日上京せり

●**參與官會議**　韓國官制に就いて過日來引續き參與官會議を開きつ〻あるも未だ決定に至らず昨日も統監府樓上の會議室に於て參與官會議を開き審議を凝らしたり

●**參政局設置**　開城の參政を度支部に附屬せしめ之を參政局とし局長一人、事務官一人、技師一人、書記五人を置くこと〻し事務官と技師は日本人を以て充ること〻なりたり

●**勳章製造高**　今回我皇太子殿下御來韓に際し供奉の諸員に對し韓廷より贈りたる勳章は二百餘にして其製造費は二千二百二十八圓餘なりしと

藍浦益不穩

去十八日我警察隊の手にて忠淸南道藍浦郡北內外面民にして暴徒に通謀する嫌疑者九名を逮捕せしが郡民は益不穩の狀態あるを以て我軍隊これに向へり

邑內蕭條たり

去る五日寧越に三百餘名の暴徒來襲し守備隊下士以下二十名が九時間に亘る交戰の後賊を擊退したるも寧越邑內は此の暴徒來襲以前既に暴徒の襲擊を受け人家約三分の二は燒却せられ被害民は附近村落に避難したることとあるに更に暴徒の襲來せしより老幼婦女は皆避難し爲めに邑內蕭條として從來の觀を留めず寧越分派所員は懇ろに避難民を慰諭し安堵業務に服し市場を開設せしめ避難中の郡守以下も歸衙任務に就かんことを促し一般の秩序を回復するに努めつ〻あり本郡上東面長裵泌元は暴徒に加擔し現に一部の首領として部下五十名を率ひ同郡川上面及び北面の各邑に於て常に出沒し專ら掠奪を行ひつ〻ありといふ

順興の暴徒

十一月十一日順興邑に賊襲の急報ありしを以て奉化にありし警官は巡查數名と共に直に午後二時榮川に達す當地の守備兵及警察官は前日奉化邑來襲の賊徒を追擊せり殘留員少數にして急速之に應ずる能はず翌十二日奉化追擊の熊澤少尉一隊を率ひて歸着したるを以て同少尉は直に部下二十五名を以て追擊に向ふ順興邑到着後賊徒の動靜を探るに賊は十一日午前七時頃約三百名西方高地より突然發砲しつ〻邑內に侵入し日本人の在否を問ひ民家に放火し郡衙分派所內に入り物品を掠奪し同九時頃古峙嶺方面に去るや同十時頃に及び更に約二百名の暴徒發砲しつ〻來襲し放火掠奪を擅にし將に其南方散在部落に放火せんとする際隣接基分遣の守備兵三名及巡查騎せ至り攻擊を加へしため目的を遂せず同邑南班一名を拉し是亦古峙嶺方面に去れりと熊澤隊は直に其退路に向ひ追蹤したるも彼等は當日寧越郡に入りたると判明し追擊を中止し十三日歸來す賊徒のため燒失したる家屋は郡衙及附屬建物四棟警務分派所郵便所學校各一棟民家百九戶にして罹災者は皆避難當時の着衣を有するのみ或は赤子を負ひ燒跡に佇立し啼泣する者あり悲慘極りなし郡守並に巡檢亦被害尠なからず

開城暴徒の檄文

開城方面の暴徒は開城北部及南部の入口附近に檄文を貼付して去れるが其全文を譯すれば左の如し

曉 喩 文

文を以て通告す我等義を舉ぐるの本意は上宗社下蒼生を救濟せんが爲にして方に各道各郡先を爭ふて相呼應しつ〻あるに開城府唯獨り容を持み勢に賴り閉門之に應ぜず只井中に坐して天を觀、火上の薪を知らずして之に座せば汝等も亦將に燒けなん梁上の燕は棟將に燒けなんとする禍を知らずして其巢にあるに等しく噫寒心して且つ痛歎せざるべけんや汝等悔ゆるなく自ら服して日人に附同し市民を煽動し無辜の生靈を齋焚の間に彷徨せしめて何んぞ顧みざる普天の下王土ならざるはなく王土の下王民ならざるはなし焉ぞ獨り一天下に二民をなし二千萬の同胞相分離し三百里の土異域仇敵の橫行に任せ玉石倶に焚き黑白相辨ぜざるの愚あらん噫此蒼生何んぞ見るに忍びんや然りと雖今若歸化せば九死に一生を得る尙亦遲きにあらず然れども終に悔悟するなく我憤氣の發する處に任せなば難容忌器の鼠たらんが故に本府內外各學校學徒各社々員及大小民等は能く此意を体し速に從ひて義に歸り同心同德の道に入るを要す

十月四日

中央倡義大將 金　參謀 金
同 軍糧 裵　台募 李
同 伊　伊軍 金
先鋒 愼　中軍 徐

暴徒を逮捕す

高陽郡白石場に多數の暴徒集合し居る風評あるを以て我憲兵は去る二十日これが追討に向ひしに大部分は已に逃げ去り擧動疑はしき者三名彷徨し居るを以てこれを逮捕し取調べしに三名とも暴徒に加はり其の附近に於て民家に立ち入り強迫して金五圓を掠奪し且つ其の家を破壞したりと自白せしと其の氏名は左の如し

京畿道仁川 趙春桂（二十九）
忠清道忠州 宋永邪（三十九）
慶尙道東萊 尹春西（三十八）

秋風嶺の暴徒

秋風嶺東北二里半鐵道線路に沿ひたる部落にて賊徒掠奪中との報あり昨夜秋風嶺より巡查を派遣し午後七時目的地に到着したるに此地は同驛より南方九哩地名知れざる韓人部落にして暴徒等は民家に侵入し金品を掠奪せんとしたるも是を拒みたるため火を放ち三十戶を燒き拂ひリュウュウの山間に逃走せし跡にて其方向不明なるにより引揚げ歸れり賊は約二十なりといふ（廿一日午後二時五十五分發）

松浦里の賊擊攘

我淮陽守備隊は去る十八日午後三時京元街道上淮陽北方二里松浦里に於て賊二十と遭遇し直ちにこれを擊退せり賊は死屍一、傷者一を遺棄して潰走し我隊には死傷なしと

長城の賊潰走

去る十三日未明我部隊は全南道長城郡內白筆山に於て暴徒三十餘名と交戰し其の二名を殪し殘餘は潰走したり

●**暴徒の處刑**　龍仁郡下南林原岩金聖寬（三七）は陰曆八月十六日以來首魁尹寬文の配下に屬し龍仁安城陽城等の地を徘徊したる旨自白したるを以て昨日守備隊に引渡し處分せり

●**開海間電線複舊期**　開城海州間の電線は一昨日暴徒の爲め切斷せられ不通となりたるが昨日來より修繕を急ぎ居れば今明日中には復舊すべしと

仁川開港紀念祭　二十五年祭

來四十一年は仁川港開港の第二十五年に相當するを以て同地官民は其紀念日を祝せんため大紀念祭を舉行すべく目下民役所理事者に於て協議中なるが四十一年一月一日の實際の開港日を以てするか又同年四月の開港條約締結の日をトしてするかは未定也と

釜山新停車場一班

釜山新停車場は構內は南北百三十四間、東西六十六間にして稅關接續地に至り逐次其幅員を廣めて百二十間に至り停車場本屋は西面して本町筋に向ひ其建坪三百七十坪、二層樓にして六十尺の高塔を造り時計臺と爲し猶は全家屋は總て鐵骨煉瓦建にして石材を裝飾部に用ゆべく其鐵骨は米國に向け注文を發したりと云へど其竣成期は二個年の後なるべく去れば昨紙報道せし如く假停車場を以て來年四月より始業するものとして軌條は全部十雙線を設け一雙線は客車用として七雙線は貨物用とするものなりと從つて海岸に面したる方は貨物線にして市街に副ふは客車線なりと

●**斗量場管理委任**　仁川海岸斗量場管理下附却下となりたる事は前號記載せし通りなるが民團に於ても折角の請願を全然却下するは氣毒にもあり且手數を要する事なれば穀物協會に對し管理を委任する事とせりと

仁川最近輸入貿易額

仁川稅關の最近過去七、八、九月間の各國輸入貿易額は日本百九十八萬圓、英百九萬圓、米國七十六万圓、支那六十万圓、獨三万六千圓、佛七千四万圓、露二千九百萬圓、那威二千三百萬圓其他各國よりの輸入總額七百三十圓なりと因に四、五、六月間の各國輸入額は總計五百四萬圓にして日本二百七十萬圓、支那百六十萬圓、米五十八萬圓、英十一圓等なりと

●**仁川の輸出入額**　十一月中旬までの仁川港に於ける輸出入額は輸出百十六萬五千五百四十二圓、輸入七十八萬九千七百十九圓なりし

●**京阪爲替手數料**　第一銀行京城支店に於て取扱ひつ〻ある爲替相場は東京送手形百圓に對し二十錢の手數料、大阪送は同十五錢なりと

家屋新築者の注意

……當局者の一考を煩はす……

近時居留地の發展と居留民の增加とが日を追ふて益々盛んなるに連れ之が家屋の新築又は增築に着手する者の著るしく多きを加ふるに至りたるは最も欣ぶべき現象なりとすされど今爰に是等家屋の新增築者が敢て愼重の注意を要し且つ當局者の一考を煩はさんとするものは其近時是等家屋の新增築者が折角多大の金額を投じて設計を經地盤を均らし愈々建築に着手し又は殆んど落成を告ぐるの頃に到り突然當局者の檢閱を受くるに逢ふや或は隣地侵略道路犯入の名の下に些の假借遠慮なく直ちに其一部を取毀さしめ或は其全部を變造せしめらる〻に至ることとなるが思ふに是等は建築者其人の注意の到らざる所にして能く其初めより之が當局者の立會を受け檢閱を經而して後徐ろに着手したらんには斯の如き面白からざる結果を來さゞるならんも亦翻つて當局者に於ても其餘りに之が見解の杓子定規にして毫も假借猶豫の跡なきが如きは亦大に戒めざるべからずトモカク發展向上の時運に向ひつ〻ある當地の昨今に於ては官民共に戮力一致して其宜しきを得んこそ望ましき次第なれ今左に之が實例の個所を擧ぐれば第一銀行は其敷地內に小通路ありしを發見せられしを以て復舊保存すべしと命せられ又日韓圖書會社は新築社宅の一棟が道路に向つて九寸餘も侵設しありしを以て之れ又取毀を命せられ次は土佐紙合資會社の建築が約三尺許の小渠の上に建てられしを以て同じく取崩しを强ゐられ次は又南山町植村病院の建物が建築半ばに至りて道路に犯入せるを發見せられしに依り直ちに建替へを命せられたりといふ

通輸京城支店設置

內國通運株式會社にては今回京城支店を置き龍山、仁川、釜山に出張所を設け十二月一日より業務を取扱ふ事となれり

●**夕氏の棧橋設置**　仁川米國商人タウンセンド氏は今回其筋の許可を受け石油揚陸の爲め運輸部棧橋より五百六十尺を離たりたる所に長十間巾一間の木製棧橋を設置する筈

●**宮殿伺候者**　一昨日の宮殿伺候は計百十三人にして內男六十八女四十五人にして重なるものは完順君、李載完、李宮內大臣、侍講院副擔部姜敬熙、閔侍從院卿同副卿李會九等にして德壽宮は男七十九人女二十七人計百〇六人なり

●**仁川稅關幇辨**　ホップキン氏一昨日來任せり

●**大韓協會總裁推薦**　同會總裁に金允植氏を推薦したるも同氏は老齡の故を以て之を辭したることは既報の如くなるが同會にては更に前樞密顧問張博を推薦したれども同氏が之を受くるや否やは未定なり

●**吉澤部長の禮狀**　元仁川運輸部長より元山同出張所長に轉任したる吉澤逸八氏より仁川民團に宛て在職中の禮狀を寄せ來り

●**遭難警官祭粢料支出**　去る七八月の京城事變に際し遭難したる井上萬平氏以下の十二名の警官に對し祭粢料及遺族扶助料として二萬七千七十六圓を豫備金より支出の件裁可されたり

●**檢事の免官**　咸鏡南道裁判所檢事金義淸は懲戒免官せられたり

●**タイムス社員の公判**　朝鮮タイムス社編輯員楊香橘氏に對する誹毀事件は仁川理事廳公判に服せず法務院に上訴中なりしが同公判は來る二十五日開廷すると云ふ

●**衞生會社の設立**　民團役所に於て汚物掃除稅の賦課割決議せられたるが京城民團の有志者は民團役所が到底永久に汚物掃除の任務を全ふし得べきにあらざればとて早くも衞生會社なるものを組織し汚物の掃除を民團より引き續がん計畫にて昨今民團議員中の有志某々寄り〳〵協議中なりといふ

●**基督教青年會演說會**　過般上棟式を擧行したる韓國基督教青年會は去る十九日午後七時より典洞青年會々場に於て演說會を開催したるが來會者は青年信徒約八千餘名にして副會頭李錦壽氏は文明の基礎と題し一場の演說をなし九時半散會したり

●**大邱の戶口**　管理事廳管內十月末戶口總計は戶數千三百十四戶、人口四千二百三十五人にして內大邱七百三十五戶二千六百四十五人金泉百〇五戶三百四十一人永同八十五戶二百八十一人慶山五十戶百三十九人淸道三十八戶百十三人なり

▲治外法權▼

いつぞや朝日通信に素破抜かれて一寸腰を折らした統監府名物の暗鬪も喉元過ぐれば暑を忘るゝでまた此際は頭を擡げた樣である聞けば本年は相變らずの鶴原君で相手は石塚君であるソウだ石塚君たるもの此先決して相手になるべからずである▲過日鶴原君は某所の宴會で大氣焔を吐かれたソウで、其氣焔と云つぱ大阪博覽會の馳走に三千萬圓を遣た事であるスエズ以東に三十萬圓の馳走、ソレは成程君獨りかも知れぬ、而しソレは余り自慢にはならぬ事柄である▲一体御馳走とは成程廣迄の事で程度を越した御馳走は乃ち賄賂手段である、鶴原君が市長時代に賄賂手段を以て萬事をやられて居つたことは今回君の自白に依て明かになつたのである▲所變はれば品變る大阪の遺口は京城へは向かぬ其向かぬ遺口で此地で押通そうとした鶴原君が手を燒くに至つたのも蓋し當然であつて夫は身から出た錆と云ものである

休刊

本日は大祭日翌日は日曜に付二日休刊す

特別廣告

植字工丸山兵次郎君に告ぐ

君が予及諸同人に負へる義務に對し曾てタイムス社在社當時予等に寄せたる文面の通り至急其契約を實行せらるべき也。若し然らざるに於ては予等諸同人は恰當と信ずる處置に出づべし敢て告ぐ

十一月二十日
京城新報社内 高木久馬太

今般生等相圖り在京の四條派の巨擘蜻洲濱夫清水東雲畫伯の繪畫展覽會を開催し落莫眠れるが如き美術界に警醒を與へ兼ねて同氏の作物を世に紹介致度候間普ねく同好諸氏の御賛同を得度候

一名稱 東雲畫會
一會場 新築京城民團役所樓上
一期日 十一月廿四日(日曜日)午前十時
一會費 金三圓(當日御持參被下度候)

尙餘興として抽籤法に依り陳列繪畫の福引を行ひ其全部を會員に配呈可致候

十一月廿一日

發起者
能谷頼太郎 東野良太 久本吉次 西山哲三郎

各位

一日一筆

▲旦那● 家内は病氣だしドレ出掛けやうかな今度は一ッ河岸を替へて官妓にしやうヨ

▲番頭● 馬鹿に今夜に限ッて菜がタップリだなア、ンれ鍋の奴俺に御座ッて居るぞ

▲小僧● 奥さん内の旦那さんを昨夜あそこで見ましたよ……話しますから一錢頂戴ナ

▲親分● 此間からすッかりアブレていかチードラ温袍質に置いて今一勝負仕に行うか

▲子分● 今朝餓鬼が打ちまかッたナ好いかヨ肴物が無ー騒ぎだ姐御濟まチーが五兩程

▲板場● 庖丁が切れなくとも腕が切れらー乍憚東京の八百勘で苦勞したンデと自慢顔

▲三助● 商賣は下司でも裸体の女を見られるのが難有テー流しと來ると手に觸わるゾ

▲下男● 權助〳〵と馬鹿にするな權助が今度伯爵になッたぞ手前は高が下女だンベー

●暴徒と新炭

氣は冬期に入り新炭の需要益々增加するの時に際し出荷甚だ少なく之れが爲め價格非常に騰貴するに至れり例へば例年一俵一圓位の木炭は二十錢乃至三十錢樹薪の如きも一貫に付十錢以上の高値を示すに至れり其理由は地方に於ける暴徒の横行は即ち之れが原因たるべく今韓商に就て聞く處に依れば京城内に出荷する新炭の大部は忠清北道及び江原道產にて重に結氷期前に漢江の水運に依りて纛島又は龍山に陸上げし夫より馬牛背に依り城内に運搬せらるゝものなるも原產地たる忠清北道江原道等は今や暴徒の中心點となり居る爲め產地より江岸に至る間の搬送は牛馬背に依りて江邊に出で而して河舟に積載して江を下り所定の地に陸上げし取引するものなるも此間に於て暴徒等に出會せんか彼等は搬送の牛馬を掠奪するのみならず牛馬夫を脅迫して暴徒の仲間に加入せしめんとす若し之れに應せざらんか立ろに慘害せらるゝの憂ひあるを以て原產地に於ける山主も此等に恐れを抱き出荷を見合せ居る有樣にて新炭商等の困難は勿論一般需用者に取りても迷惑を感じつゝありと云ふ

●富籤の出願

目下奔走中なる衛生會社成立の上は市民の汚物掃除の經費を輕減せしむる爲め會社より富籤を賣り出さんとの計畫ありて先頃發起者一二名は統監を訪問して利害を陳上する所ありしも多分許可せざるべしと云ふ

●肥塚商店の開店披露

長崎を本店とし泉州堺に釀造場を有する清酒白菊盛及都菊は販路擴張のため今回京城本町三丁目に出張店を設置し去る廿一日午後六時花月に於て京城の有志及知人五十餘名を招待して披露會を催したり

●實業會社

韓國宮内府所屬倘樂妓房妓生は今回新官制中より削除せられたるを以て爰に一會社を起し靑樓を作つてこれに收容し妓生をして一般の需用に應せんと計畫るものありと

●謀殺未遂犯の判決

當地大平洞居住千葉縣安房郡八東村生れの活版職生稻要(二十)が同職津崎某の妻に横戀慕をなし恨みを其の夫某に擕へて去る七月四日ピストルを以てこれを殺害せんとせしことは當時巷間に喧傳して讀者の夙に知らるゝ所ならんが今其の仔細を記さんに要は某と共に日韓圖書印刷會社に勤務することゝて親友の間柄なれば一戸を借りてこれに同居することこそ經濟ならんと爰に協同にて大平洞の韓人家屋一間を借り某には妻子もあることゝて板を以て二室とし要は某に月何程かの賄料を拂ふて食事の供給を受け居りしが要は某の妻に横戀慕をなし六月二十八日に殊更らに病氣と僞はり內居して諄々と口說きたりしも此方は浮きたる心露だになければ脈な男と思へどもわたら恥かゝせて怒りを買はんよりはと遉がに女心のしほらしくも程能くわしらひて其の日は甘々と切り拔けしが要は懲性もなく翌二十九日にもまた內居して喃々と責め立つれども此の日も同じく笑ひに紛らして虎口を遁れんせしに要が執拗口說けるより遂に蒼蠅堪ねやらざるまゝに緘默して居たりければ要は斯くも我に情なく待遇さるゝは已に其の夫某にも告げたるならんといひ否決して何條かゝる戯言を夫に告げ申さんやと辨ずるもこれを信せず我には覺悟ありと血相かへて他出せしが其の後要は某さへ居らずは我に從ふこともあらんと愚かにも無分別なる考を起せしと見えて七月三日の夜にピストル一挺を買ひ求め四日の午後一時頃某が午餐を爲す折を窺ふて板界越しに一發放ちたりしも其の丸外れて其の傍なる皿鉢を碎きたるのみなりしが某は驚いて後に振り向けば要はピストルを擕へて又もや二發目を放たんとするより有合ふ毛布を手早く採りてこれに向ひ要は一生懸命に更らに二發を放つて逃げ出せり某は其の最後の一發に左胸部に負傷したるも敢て屈せずこれを追及して遂に組み伏せ夫れより要は警察の下に繋がれ取調中なりしが情狀の酌量すべき點なきを以て昨日無期徒刑に處斷せられたり

●熱湯の親切

本町か南山町かは知らざれどさる宿屋の二階に去る頃より泊り居る一人の紳士あり此寒いのに二階住居は一層寒さを覺ゆるにぞ此寒を凌ぐ工夫はあるまいかと冷たい夜着の衿に首を埋めての思案に漸く思ひ付たといふ見へにてハタと膝を打ち斯くも智慧者とは我ながら思はなかつたそれ〳〵早く手を叩いて下女を呼び寄せうぞと手を打ち鳴らせばハーイと登り來りしは此屋の召使お何と云ふ福相女襖を開くるや其處に三ツ指の禮も鄙びず御用の筋は如何と畏まれば紳士は斜めにジロリと見やり念なう早かつた近う〳〵とのことに二三尺ニジリ寄り紳士の氣色を窺へば紳士は座右の手提より澁澤男を二枚取出だしこれはお前に遣す少いけれど不性し呉れ就ていてくりやるかとのことにお何もお客さんのことなれば何でも致すが主人に奉公妻に母しき言葉に紳士もそれで俺も頼み甲斐が出來ますことなれば何なりと致しますと頼あるといふもの實は此頃の寒さでは二階住居はやりきれないされば迚て溫突を借りて住居ふといふ譯にも行かぬ熱ら惟みればビール瓶に熱湯を入れ之をユタンポの代りにしようと思ふお前達所には內密で每夜熱湯を入れることは出來まいかとの切ない頼みにお何は何かと思へば夫れしきのことオホヽと口を押へいさた易いこと早速今より差上げますと座敷をすべり出で下に降り臺所に至り人知れずビール瓶に熱湯を入れ固く栓を施し紳士の前に持ち行けば大に喜び直ちに之を蒲團の中に入れ其夜は暖かい件のお何の親切にて溫かい夢を結ばれたり夫れより每夜ビール瓶に湯を入れ持ち行くを他の下女がチラと認め用こそあれと云はんばかりに其夜は何事も云はず過し翌夜お何が例の如くビール瓶に熱湯を詰め置き何か用事に立ちし跡にソッと窺ひ寄り栓を緩め素知らぬ振りして立去りしをさりとは知らぬお何は例の如くビール瓶の熱湯を紳士の前に持ち來りたれば紳士はお陰で溫かに眠れると押戴いて取るより早く床の中に引摺り込んだがドウした機會か件の栓が拔けしにぞ何かは以て堪るべき熱し切つたる湯は遠慮なく蒸氣を揚げて床一面に氾濫し蒲團はヅブ濡れとなり手足は火傷するといふ騷ぎに何事の起りしかと駈付け見れば件の始末に一同呆氣に取られ居る計りなりしが只一人の下女のみは喉の中でクス〳〵

●丸髷と韓人

こゝ京城は曙町に『うどんぜんざい』と記せし軒行燈を揭げたる小店あり土方車夫さては前乘掛の丁稚小僧が出入するは敢て珍らしきことならぬも衣冠束帶の韓人が出入するこそ怪しけれ夫れさも彼れ日本化して饂飩おいしい善哉結構々々と舌皷打つことやらと二度三度は氣にも留めず見遁せしが何時も時を違へず午後の一時頃にこの韓人が這入る間もなく二十五六の丸髷の日本婦人が這入る一時間ばかりしてまた前後して出で去るよりいよいよ以て怪しき限りと其の丸髷の後をつけ行きしに南山町に入る角にて見失ひしが聞けば南山町二丁目邊に住ひして夫は何府とやらに出勤するものとか去りとは怪から振舞哉

●本町座の北村劇

同座本日の狂言は大阪每日新聞所載『夏子』にて役割は左の通り 皐月文雄、高木博士(井上)糸商鎌田酒造(新田)妹お園、文學士長濱健(西本)豪商角野喜兵衛(大島)武村文子(桂)五兵衛妻お時(横山)間々田主人(吉岡)下男源助(谷)紳士馬淵太三(中澤)父葉山茂利(保岡)五兵衛松三(小泉)澤野專藏(靑木)ハイカラ婦人百合子(北山)澤野周作(三木)みどり(三國)鈴木浮藏(淸水)菓子商子輿吉(森)葉山茂樹(北村)

京城博覽會
名譽金牌授領

開店披露

各位益々御淸福之段奉賀候降テ本店釀造之淸酒ハ是迄韓國各地販賣店ニ於テ御愛顧御引立ヲ蒙リ漸次隆盛ニ趣候段奉深謝候此際一層擴張致サント今回出張店ヲ設置シ十一月二十日開業大勉强仕候ニ付御懇命御引立之程奉願候

敬具

釀造發賣元 京城本町三丁目十一番地 肥塚京城出張店 (電話二一二)

大阪賣店 京城本町二丁目 佐藤牧商店 (電話二九)

廣告

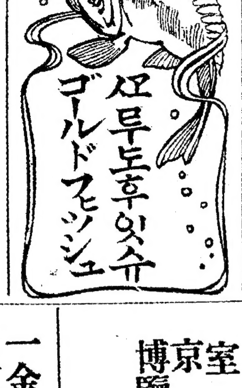
新聞賣捌

京城日報	一ヶ月四十錢
大阪朝日新聞	一ヶ月四十五錢
東京朝日新聞	一ヶ月三十七錢
萬朝報	一ヶ月三十三錢
時事新報	一ヶ月五十錢
大阪時事新報	一ヶ月三十五錢

右各新聞迅速確實に配達仕候尙今回申込所を設置仕候間御便宜弊堂及申込所に御申込被下度候

京城大漢門前 盛文堂 電話四二六番

申込所
大和町一丁目 田中商店
本町二丁目 江見商店
南大門外 目良商店



諸官衙御用達
雜貨食料品
龍山停車場前
村井商店
電話四十一番

列車時刻改正
(平壤兼二浦間)

本月廿一日より平壤鎭南浦間交通の便を圖り平壤兼二浦間に一往復の直通列車を設け黄州兼二浦間列車運轉時刻左の通改正いたし候

○改正列車運轉時刻

兼二浦行		
平壤發	直通 前七、〇〇	
黄州着	同八、一四	
黄州發	同八、三〇	後六、〇五
兼二浦着	同八、五七	同六、三三

黄州及平壤行		
兼二浦發	前九、二〇	直通 後七、〇〇
黄州着	同九、四七	同七、二七
黄州發		同七、四〇
平壤着		同八、五四

○本時刻は南行北行何れも都合よく接續いたし候

明治四十年十一月
統監府鐵道管理局運輸部

室內裝飾品
京城博覽會 一等賞金牌受領
歐米雜貨
美術品商
四ヶ所商店
電話三二一番

一金一千餘圓大景品觀覽券發賣特別廣告

來る二十二日より二十八日迄(雨天順延)大パノラマ館觀覽料金廿五錢を十五錢に改定し壹萬本に限り一等より十七等迄大景品を進呈す

景品目錄
最高價額金一百圓より最低金五錢相當の景品とし空籤なし

大漢門側貞洞西小門通
パノラマ館主 敬白

銀行一般業務精々御便利に取扱申候
資本金　參百萬圓
積立及繰越金　七拾貳萬圓
京城南大門通（電話四二〇）
株式會社 十八銀行 京城支店
本店 長崎市築町
支店 出張所
韓國 京城、龍山　仁川、木浦　釜山、元山　羅州、群山
日本 大阪、熊本　佐世保、嚴原　五島、壹岐
其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢四厘）
長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

本店 東京市日本橋區兜町
內地支店及出張所 韓國支店及出張所 淸國出張所
大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市
仁川、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
下關、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、
平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鏡城
安東縣
株式會社 第一銀行京城支店
總支配人 市原盛宏
副支配人 國庫部長 三島太郎
副支配人 調査部長 竹山純平
副支配人 營業部長 木村雄次
電話番號 營業部 一一番　當直用 同番　營業部 三三二番　國庫部 六一一番　用度係 六二二番　分拆所 六三三番

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候
資本金 三百万圓
本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣
株式會社 第五十八銀行京城支店（電話五八番）

爲替取組先

畿內	二十七ケ所
東海道	十三ケ所
山陽道	七十五ケ所
南海道	二十三ケ所
北海道	五ケ所
臺灣	二ケ所
東山道	二十八ケ所
北陸道	十ケ所
山陰道	十三ケ所
西海道	三十ケ所
韓國	九ケ所
淸國	一ケ所

一石炭
一セメント
一パインアップル
三井物產合名會社
京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）
右新荷着仕候間多少に不拘御用命願上候

統監府 各官衙 御用
荷物荷造及運搬
伊藤組
伊藤友松
本店 琴平町（電話七百三十二番）
營業部 本町三丁目（電話四十一番）

直輸入荷着
セメント特約販賣
新荷着
浪板 丰
廉價大販賣
建築及土工用具並小金物類一式取揃申候間御用命被仰付度候
仁川港本町通り
秋田商會鐵物部
電話一一六番

廉價販賣
蒲團
若林商店
弓打 綿類
京城本町一丁目郵便局前

和洋金物商
金物部
金釘洋鑄鋼類　土工用器具　洋物類一式　諸種油類
卸部
トタン平浪板（廿六番廿八番卅番）各種
精糖　メリケン粉
和洋紙類
金庫及度量衡
藤本藤次郎本店
京城本町五丁目
長電四五番

諸官衙御用品調達
營業科目
紙類書籍　印刷附屬品　印刷インキ　防腐デシン　穀物食鹽　織物染料
各學校用品調達
幷に
委托販賣
東京 合資會社アライアンス商會代理店
橫濱 百七十六番 ビューエンドライフ商會代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
東京 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約店
釜山 臺鹽合資會社食鹽特約店
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目 電話一三〇番
支店 仁川港濱町二丁目 電話二五五番
出張所 東京京橋區南鍋町一丁目 電話新橋三九六二番

綿類
與新蒲團
卸
唐川商店
京城明治町二丁目

西洋御料理宴會
日本人俱樂部
京城南山町三丁目（電話一二三番）

히이로
ヒーロー

廣告
往診 午前
宅診 午後
但し急患者は隨時往診
入院隨意
京城貞洞大漢門前
蘇生病院

오루도
オールド

入院隨意
京城醫院
京城壽町一丁目
電話七四二番

日本郵船株式會社
仁川出帆廣告
電話十番

● 釜山長崎門司神戶行
山東丸 十一月二十八日後三時出
● 群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行
浦汐丸 十二月六日後三時出
第一オハヨ號 十二月一日後三時出
● 大連、大沽行
酒田丸 十一月廿六日後一時出
高砂丸 十一月二十八日後一時出
● 大連、秦皇島行
山東丸 十二月十七日未明出
● 鎭南浦行
第一オハヨ號 十一月廿八日後三時出
浦汐丸 十二月二日後一時出
● 釜山出帆、元山、城津、浦鹽行
淡路丸 十二月四日

御注意
御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ無料送迎可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

貨物及船客取扱店
仁川海岸通 郡回漕店 電話三九番
京城南大門通 巴商會 電話三〇六番

大阪商船株式會社
仁川出帆廣告

● 關門、神戶、大阪行
安平丸 十一月 日前十時出
能登丸 十一月廿四日前十時出
● 大連、門司、橫濱、行
勝山丸 十一月廿五日
● 關門、宇品、神戶、大阪行
馬山丸 十一月廿八日前十時出
● 群山、木浦、釜山、關門、神戶、大阪行
群山丸 十一月 日後五時出
木浦丸 十一月廿九日後五時出
● 群山、木浦、馬山、釜山、關門、神戶、大阪行
千賀丸 十二月三日後五時出
筑後川丸 十一月廿六日後五時出
● 鎭南浦行
馬山丸 十一月廿四日後一時出
● 木浦、釜山、嚴原、鄕之浦、長崎行
木曾川丸 十一月廿五日前十時出
● 長崎行
信濃川丸 十一月廿九日前十時出
● 鎭南浦、大連行
信濃川丸 十一月廿五日前十時出
木曾川丸 十一月廿五日後四時出
● 大連門司橫濱行
勝山丸 十一月廿五日正午出

仁川支店 電話一二番
切符發賣所
仁川稅關波止場出張所 電話二一〇番
京城本町通り事務所 電話五〇番
荷客扱店 慶田組 電話六五番 電話四二番

龍山老松町
花柳病及眼科專門
十字病院
院主 醫科大學撰科得業 望月憲麿

工學博士 藥學博士 高峰讓吉氏發見
위장 胃腸
신약 新藥
타가
タカヂアスターゼ
韓國一手卸元
仁川倉知商會
電話一二三〇番